

## 12. 午後の実践報告を受けてのまとめ

片田 敏孝 (群馬大学大学院 教授)

みなさんの話を聞いていて、全体にみなさんが頑張っていることは、よくわかります。しかし、頑張れば頑張るだけどんどん重くなっていくことも確かです。あまり重くなると動かない、今の思いでは動くけれども、ずっとと考えると動かない。スリム化という言葉がでてきて、そうだなと思いました。そういう面では、今は大変ですが、「軌道にのっていきことで徐々に楽になっていきます」ということは言えると思います。

新庄地震学の話を知っているとわかりますが、もう当時の子どもたちは地域の若者です。だから地域との連携も非常にやりやすくなっていきます。それがまた文化となっていけば、今後もずっと「そんなもんだ」というふうにどんどん続いていきます。今は大変だけれども、ちょっと頑張ってもらくと、どんどん軽くなっていく側面もあるということはあるように思います。

私は、釜石の居酒屋で若者に声をかけられたことがあります。「先生は覚えてないかもしれないけど、中学校で先生の授業を受けたからちゃんと逃げたよ。おばあちゃんを助けたよ。」といわれました。これが時間の持つ力だと思いました。今は大変ですけど、今、先生方が 3.11 から 4 年になりますが、頑張ってもらったこと、そしてこれから続けていくこと、もう 5~6 年やっていけば、その辺の若者の中に先生方のご指導を受けた子どもたちがうろうろしてくれるようになります。どんどん良くなっていきますから、今はちょっと大変ですが、もうちょっと頑張りましょうということを一言申し上げたいと思います。

それから防災教育が、人権教育や、福祉教育や、子どもたちの学習意欲を高めるなど、全部内包しているということを、先生方も少しずつ気づかれてきていると思います。そういう面では、子どもたちのご指導に充てていた時間を、他を削っても防災教育をやると効果があります。

そうは言っても重荷にならぬよう軽減して、どうやって進めていくべきかについては、今後もみなさんと議論をしていきたいと思います。これまでやってきた従来型の防災教育を、がむしゃらにいっぱいやろうと言っているではありません。もちろん従来型の防災教育ももちろん必要ですが、それだけでなく、「何を指すべきなのか」ということを、少し軽減できる・スリム化できるということも含めて議論していきたいと思います。

今日の最大の成果としては、それぞれの地域のそれぞれの良い話をたくさん聞いてくださったと思います。刺激されたかと思います。このあと 19 時からの懇親会でも先生方同士で、あちこちで情報交換していただき、この中でつながっていただきたいなと思います。

